

山麓もよう

交流の家周辺の体験情報をご紹介します！

【群馬県立日本絹の里】

<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>

群馬県では、養蚕が古くから盛んに行われていました。高崎市の群馬県立日本絹の里では、様々な資料や展示を通して、養蚕やシルクについて詳しく知ることができます。

展示は、ジオラマや映像のコーナーもあり、楽しみながら学ぶことができます。また、特別展や企画展、様々なイベントも年間を通して開催されています。

染色や手織り、繭クラフトなどの体験学習が可能な他に、多彩な絹製品を取りそろえたショップもあります。富岡製糸場と絹産業遺産群が世界遺産登録された記念に県立日本絹の里で、絹文化のすばらしさに触れてみてはいかがでしょうか？（文：織間）



日本絹の里の外観写真です。館内には蚕糸業の歴史が詰まっています。

- 所要時間: 交流の家から車で50分 ■TEL: 027-360-6300 ■開館時間 9:30~17:00
- 住所: 群馬県高崎市金古町888番地1
- 料金: 一般: 200円(160円)、企画展期間中 400円(320円)
大学生・高校生: 100円(80円)、企画展期間中 250円(200円)
中学生以下及び身体障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名様は無料
※()内は20名以上の団体料金となります。
- 休館日: 毎週火曜日(祝日の場合は翌日)、臨時(各企画展示前3日間)、年末年始(12/27~1/5)

リレーcolumn
すたっぷの目

『第3の場所(サードプレイス)』

文: 根岸 登
【ねぎし のぼる】



今年から企画チームのキャプテンをしている根岸さん。

学校現場を離れ、交流の家に勤めて3年目。林間学校や主催キャンプに参加している子どもたちを見てると自分自身の子どもの頃を思い出します。

私も小学校時代からよくキャンプスクールに参加していましたが、日常の生活の様々なしながらみから離れ、特別な仲間と特別な体験をするキャンプは本当に楽しかったものです。

結局私は学生時代までそのキャンプスクールに関わっていたのですが、家でも学校でもない、非日常な世界のキャンプスクールという第3の場所の存在は、日々の生活の様々なストレスで潰れそうになる自分の癒し(再活性)の場であったように思います。そしてそこでの出会いや経験が、生きる力を育み、今の私のパーソナリティの大部分を形作っているといっても過言ではありません。

今の時代の青少年たちは、私の時代以上に日常の生活で様々なストレスを抱えていると思います。そのような彼らに、新たな活力や癒しを得られる場や機会を提供していきたいですね。

国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp/>

TEL: 027-289-7224 (9:00~18:00) FAX: 027-289-7226
〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27 E-mail: akagi@niye.go.jp

つぶやき田



【テーマ: 最近思うこと】

- ワールドカップ面白いですね。プレー自体のレベルも高いですが、意地とプライドのぶつかり合いに感動しました！職員のフットサル大会頑張ります！（原田）
- 健康グッズを買いました。年齢とともに衰える肉体に対する挑戦です。いつまで続くかな…やまなみまではがんばろう！（木暮）
- “夏の思い出”に歌われた、「はるかな尾瀬」は近くなりましたがまだ行ってません。秋にはぜひ行こう！（杉浦）
- ガソリンの高騰で今の車の買換えに悩んでいます。ハイブリット?排気量?形は?何人乗り?などなど…。（松崎）
- 3年目の夏が来た。3回目のやまなみキャンプが来る。今年は何んなドラマがあるのかな？（根岸）
- 子どもたちがヒノキの箸を作っているのを見て、木製の食器を作ってみたいな、と思っています。（山田）
- 子どもがあと少しで2歳。だいぶ幼児になってきて、私も親の苦楽が少しは分かるように。うーん大人！（川崎）
- カブトムシの幼虫を見て気絶していた2才の娘が、アシナガバチの幼虫を「かわいい」と成長したね。（小川）
- 6月の目標は「心も体もお部屋もキレイに！」。6月が終わり…。結果…。現状維持(o)/ (江原)
- 味がある終着駅のある下仁田町。最近ジオパークの存在も知り興味津々です。ぜひツアーをしたいです。（手島）
- 体力の衰えを日々実感しています。けれど、気力はしっかり持って暑い夏を乗り切りたいです。（織間）
- 小2の息子と片道12キロのサイクリングに行った。行きはよかったが帰りは…。次も行ってくれるかな？（新井）
- 今夏こそ、ソーラークーラー使いたい、メニューを選んで必ず実現！！（「プロになる」と誓って1年やっとその時が来たました）（鈴木）
- 「ほんとうの夏が来た。」毎年、心の中に渡辺美里の曲がパワーチューンする季節。（高瀬）
- 今や子供たちに大人気なのが「妖怪ウォッチ」。私の息子も大好きです。なぜ爆発的人気なのか気になります。（根本）
- 期待して買った雨具を見て思う。『見せて貰おうか。新しいトレントシェルの性能とやらを！』（井上）
- 最近コーヒーを買いました。食事や通勤の際に美味しいコーヒーが飲めるようになり、満足しています。（高橋）
- 実家のネコが元気かいつも気になっています(しかし帰ると威嚇されたりします)。（森田）
- 「あと少しその油断が命取り」施設(約500m)から赤城山の最高峰まで登山しました！（落合）
- 皆さーん、この暑い中頑張ってますか？私は連日草と格闘しながら、心の中で雨が降り続くことを願っています。（佐藤）
- 赤城3度目の夏、ピアガーデンでは身内ですが他の職員の皆様にご迷惑をかけたことお詫び申し上げます。（中屋）
- もちろん野菜しかないのですが、それを超える勢いなのがやはり高校野球!!これがなくちゃ夏じゃない!!（筒）

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ

8-9
2014



「ノアザミ」

鋭い刺が特徴のノアザミ。

春から初夏にかけて咲くので、綺麗に咲き誇るノアザミを見ると、夏の訪れを感じることができます。

風の匂いや日の長さなど季節の移り変わりを感じる瞬間はたくさんありますが、自然豊かな地域に住んでいるのなら、野に咲く花や木々などで感じる事が出来たら素敵ですね。

次号は、
10月1日発行予定!

風のおと

“感動大安売り”の時代に

テレビ欄のタイトルほど本当に感動する番組にはなかなか出会えないものです。そんなことを思う中、当所で静かな感動体験がありました。それは、研修会で紹介したプログラムを「ぜひ、うちの学校でやりたい!」と、ある学校の先生から申し出があったことがきっかけでした。そのプログラムは、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』をスライド画に合わせてナレーションをする劇で、先生方は子どもたちに内緒で何日も練習をしたそうです。そして、宿泊体験の夜がやってきました。子供たちは木の間に張ったシートで作ったスクリーンの前に座り、いよいよ開演。音楽が流れ、絵が浮かび上がります。緊張気味の声で始まりましたが、すぐにみんなが画面に引き込まれていきます。悲しい物語ですが、

上演の40分間、子どもたちは身じろぎもせずに観入っていました。そして、「これで終わります」という先生の言葉を遮るように、児童の代表が立ち上がり「先生、こんな素敵なお話をここまで用意してくれてありがとう」と突然の挨拶にみんなが大拍手。

『感動』という言葉が手軽に使われている今、私もこんな一体となった静かな時間を共有でき、久しぶりの本物の感動に鳥肌が立ちました。所長 杉浦俊之

「交流の家HP」「Facebook」で当所の情報を更新中

体験の風をおこそう



あかぎ カラゴロリ

検索

ふみだす一歩、赤城から新しい自分へ

5月24日(土)～25日(日)の1泊2日でボランティア養成セミナーが開催されました。県内外の高校生以上を対象とした事業で高校生24人、大学・専門学校生7人、社会人5人の合計36人が参加してくれました。

大学の先生を2名講師として招き、青少年教育や施設についての講義を受けたり、救命救急法の実習を行ったりしました。これからボランティアをはじめたいと思っている参加者にとって、現代の子どもの現状を知ることや救急法の実技講習を受けることはとてもよい刺激になりました。

また、夜は野外炊事として当所のプログラム「ドラム缶ピザ作り」を体験しました。粉をこねるところから生地を作り、ベーコンやチーズをトッピングして、デザートピザにも挑戦しました。食事の後は「ボランティア活動の意義」というテーマでワークショップを開催しました。いろいろな人との交流の機会にもなり、参加者同士の距離がぐっと近くなったように感じました。

今回の事業を通して、ボランティア活動に興味を持っている人は「誰かの役に立ちたい」という前向きな気持ちを持っていることがわかりました。私たち交流の家がセミナーによってこうした



H26 教育事業 ボランティア養成セミナー

人たちへの支援を続けていくことの重要性を感じました。また、すでに活動をスタートさせている先輩ボランティアが運営の補助をすることで、よいお手本となっていたようです。

これからもボランティアを志す人たちに活動の場所を提供し、成長を支えていきたいと考えています。

(文：木暮)



タイムスケジュール

1日目

- ▼オリエンテーションとアイスブレイク
- ▼講義「青少年教育の理解」
- ▼講義「青少年教育施設の現状と運営」
- ▼実習「野外炊事(ドラム缶ピザ作り)」
- ▼入浴
- ▼演習「ボランティア活動の意義」
- ▼就寝・消灯

2日目

- ▼演習「救命救急法と安全管理」
- ▼講義「ボランティア活動の実際」
- ▼講義「青少年教育施設とボランティア」
- ▼閉校式



これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問合せください ⇒TEL027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)



■あかぎサンサンかがやきキャンプ
8/31(日) 日帰り

障がいのある子どもと一緒に楽しく活動するキャンプです。メインプログラムは、マスのつかみ取り、ネイチャークラフト、自然散策です。

■ボランティア養成セミナー
10/25(土)～26(日) 1泊2日

ボランティアに関する知識を学習したり、人間関係を構築するための技術を習得したり、社会に積極的に関わろうとする若い人材を育成します。



■あかぎスポーツ交流デー(野球)
11/1(土)～2(日) 1泊2日

県内外の中学校の野球部が集まり、優勝目指して戦います。



■自然体験指導者養成研修
11/1(土)～3(日) 2泊3日

自然体験活動の特定プログラムの指導に当たる指導者の養成をします。学校教育における体験活動の位置づけや、自然体験活動指導者のしくみと役割を学びます。

プログラム 紹介!



【ネイチャーゲーム】



ネイチャーゲームは、アメリカのナチュラルリスト、ジョセフ・コーネル氏によって考案されたプログラムです。

植物や動物の名前を知らなくても楽しめる自然を使ったアクティビティが160種ほど存在します。アクティビティの1つ「ネイチャービンゴ」では、「においがあるもの」、「ザラザラするもの」、「色鮮やかなもの」等、五感をはたかせながらビンゴを完成させます。他にも、緑の中に「人工物」を置いて探す「カモフラージュ」などアクティビティは様々です。さらに「ナイトネイチャーゲーム」では、夜だからこそ味わえる暗さや静けさを体験することができます。

自然いっぱい交流の家でネイチャーゲームはいかがですか? (文：山田)



ネイチャービンゴで使うシートです。

国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方をご紹介します

この人に会いたい

●国立赤城青少年交流の家 研修指導員
レクリエーション・ネイチャーゲーム

角田 正基さん【マスク】



いつもやさしい笑顔で子どもたちを見守りながら指導してくれます。

角田さんは、「星空観察の講師は、角田さん」と指名されるくらい、星空の指導に詳しい方です。赤城の自然にも詳しいので、ネイチャーゲーム指導も楽しい活動の1つです。利用団体の希望にも快くこたえてくれ、先生方からも人気です。

星空観察以外にも、ネイチャーゲームやレクリエーション、スーパー竹とんぼ

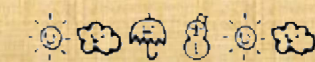
など多彩な指導スキルを持っています。最近では、かんな箸も担当し、さらに活躍する場を広げています。

当施設の研修指導員だけでなく「萬屋レク之助」という、自然体験活動・レクリエーション活動指導者の団体の代表をしています。副会長は5歳になるお子さんがしているとのこと。

県内の青少年教育施設や福祉施設の依頼に応じ、キャンプ・レクゲーム・バルーンアート等の指導を行うことで、県民のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)を高めるために頑張っています。機会がありましたら、彼の楽しい指導を受け、QOLを高めてみませんか?

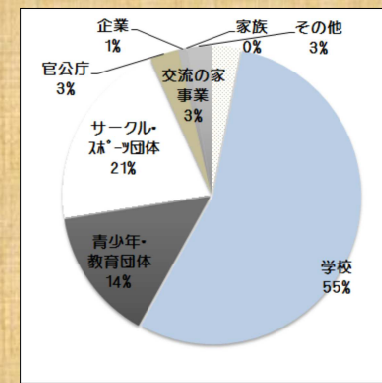
(文：根本)

利用のようす(6～7月)



- 6月の利用者数
…6,088人
129団体
- 7月の利用者数
…5,062人
86団体

★利用団体
種類別の割合⇒



施設周辺の植物など

赤城では夏から秋にかけて数多くのトンボが見られます。一步森へ入るとシオカラトンボ、クロイトトンボ、オニヤンマなどの飛翔する姿が見られ、巨大なオニヤンマが沢に産卵する姿を会った時は感動すら覚えます。

さて、多目的フィールドに目を移すとすでに6月からたくさんのトンボが飛んでいます。「赤とんぼがいる～」と子ども達が驚きますがいわゆるアキアカネではありません。

ウスバキトンボという種類で、九州で春に孵化すると、世代交代をしながら北上してきます。長距離飛べるので6月には赤城にたどりつき、最後には北海道で見られるそうです。驚きですね。このように赤城では、たくさんのトンボを観察することができます。夏の宿題で取り組んでみたいですね。(文：小川)



野外活動における リスクマネジメント

入門編 第5回

野外活動で一番多いのが、野外炊事の時のケガです。これはみなさんなんとなく予想がつくかも知れません。

今回の本題はその次です。「自由時間」のケガ・事故が意外に多いのです。活動中は、スタッフ(教員)も意識をしていますから、さまざまな対策をとって万全な態勢でのぞんでいることでしょう。

しかし、休憩時間や自由時間はどうでしょうか。以前にこんなことがありました。夜、事務室に子どもたちがやってきました。同室の友だちが具合が悪くなったのだけど、スタッフ(教員)の姿が見当たらないと困っていたのです。ちょうど別室でスタッフミーティングをしていたのです。事務室ではその場所を把握していましたが、すぐに連絡を取り何事もなく対応することができました。

これが、ぜんそくやアレルギーの発作だったりしたら、一刻を争うような事態だったら大変なことでした。緊急の際のスタッフの居所を子どもたちに知らせておく、ミーティングのときも子どもたちのそばには待機スタッフを配置しておくなどの配慮が必要です。

厳しい話ですが子どもたちにとって自由時間でも、スタッフにとっては自由時間ではありません。交代で休める態勢を取るなど、スタッフにとっても負担のないよう計画されると良いでしょう。(文：高瀬)